

- 1 派遣期日 平成22年11月 5日(金)
- 2 研修先 学校名 大田区立田園調布小学校
所在地 東京都大田区田園調布2-31-16
<http://academic2.plala.or.jp/dncfe/index.htm>

3 研修内容

文部科学省指定

学力向上実践研究推進校研究発表会

(1) 研究主題

学習力を高める

— 主体的に問題解決に取り組む子どもたち —

(2) 研究の概要

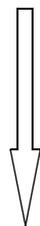
研究の中心に「学習力」という言葉を定義し、子どもたちにその「学習力」を身につけさせるための研究を行っていた。「学習力」とは「学ぶための力」と考え下の図のように構造化して、研究にあたっていた。



学力の要素を「意欲」・「思考力」・「判断力」・「表現力」として捉え、高める手だてとして「言語活動の充実」・「交流の工夫」・「効果的な自己評価」を研究して、授業で実践していた。

『具体的な取り組み』

- ① 問題解決的な学習の充実
問題解決的学習過程の基本形の確立



- 「つかむ」
想像する力，分析する力の育成
- 「もとめる」
分析する力，伝達する力，自己決定する力の育成
- 「まとめる」
構成する力の育成

② 学習活動の多様化と活性化

ア 言語活動の充実

「言語」と「学習活動」とを意図的に関連づけた場を設定し、効果的に言葉の力を育成していく。
(思考力・判断力・表現力の向上)

イ 交流の工夫

自分なりの判断の仕方や感じ方を言葉で交流し合うことで、他者の価値観にふれて思考を深め、自分の考えを決定する。(自己決定)

エ 効果的な自己評価

学習目標に照らし合わせて、自分の学習の進捗と成果を振り返り、次の活動へつなげていくこと。
(意欲の向上)

③ 学習習慣の確立

- ・学習環境を整える。
- ・確かな児童理解と信頼関係の構築

- ・全校で徹底したい学習に関する基本ルールの共通理解(田小ルール)
(教科ごとに設定し、どの学級も、どの教師も実施)

(3) 公開授業から

第3学年社会科「くらしと工場」の授業

○本単元を通して特に伸ばしたい学習力として「自己決定する力」を掲げていた。

- ・人形焼き工場の人々の工夫について、調べたことの中から、町の人に伝えるべき価値のあることを判断する。

○学習力を高めるための手だてとして「言語活動の充実」をあげていた。

- ・人形焼き工場の人々は、製品づくりのためにどのような工夫をしているのか、考えを明確にもつために、自分の言葉でまとめる。

① 本時の授業から

学習課題…………… PRポスターで伝えたい、人形焼き工場の工夫をえらぼう

本時は、これまでに見学や調査でまとめた人形焼き工場の人々が、おいしい製品を早く大量生産するための様々な工夫をグループで話し合いPRポスターで伝えたいことを選ぶ学習であった。

グループでの話し合いでは、ブレインストーミングで情報を出し合い「工場の一番の工夫」をまとめる活動をしていた。その際に選んだ根拠を明らかにして、自分の言葉でまとめさせることで**自己決定力の育成**と**言語活動の充実**を図っていた。

3年生は、社会科の導入期であるのでインタビューや見学、まとめ方など、調べ学習の学び方について、学習の流れが分かる形で学習を進めているとのことであった。

4 感想

田園調布小学校では、研究テーマ「学習力を高める」を設定し、3年間研究に取り組んできたが、その研究成果が十分感じ取れる研究発表会であった。

学習力をしっかり定義し具体的に学習力を向上させるための取り組みを各教科、各授業のなかで実践されているのが参観や研究発表から感じ取れた。特に参観者全員に配布された、「学習力育成授業力向上ハンドブック」はQ&A形式でまとめられており、学習力向上に欠かせない考え方や実践方法が細かくまとめられたこれからの指導に役立つ大変すばらしいものであり、日常的に読み返して活用していきたい。

特に、新学習指導要領で求められている「言語活動の充実」について体育や音楽などの指導においての実施例は大いに参考になるものであると思った。

また、学習習慣の確立を研究していたが、望ましい学習習慣が定着することで学習への自信がもて、次の学習意欲へつなげていくという考えは、家庭や地域の協力がしっかりあって実現できるものであり、田園調布小学校の地域性や保護者の学校への協力姿勢のすばらしさを強く感じた。参観や研究発表を通して、実践や研究のすばらしさを感じることができたとともに現在本校で実践している指導を充実させていく必要性を感じた。